

<p>地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)</p>	<p>事業が計画どおり適切に実施されている点を評価する。 第三者評価委員会での有識者からのコメント(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・今後、近距離中距離含めた、通学利用170名をどう運ぶかが重要になってくる。利用者OD、潜在的な需要含め、探っていただきたい。 ・吾妻線の利用促進に留まらず沿線住民の利便性向上ということで新幹線を使った実証というのは、JR東日本さんならではの思い切ったアイデア。来年度の実証とあわせて、2つの実証結果を見比べて検討いただきたい。 ・地域全体で高校生を支える、そのなかで鉄道ができること、高校と調整すべきこと、フィーダー路線を生かすこと、地域の他の移動と重ね合わせることでコストをシェアすること、等を含めて議論をたくさんしていただきたい。</p>
--	--

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進等に係る事業)

令和8年1月20日

協議会名: わたらせ渓谷鐵道再生協議会

評価対象事業名: 地域公共交通再構築調査事業(実証事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
<p>【事業名】 閑散期の利用を促進し、便数を維持するための実証運行(わたらせ渓谷鐵道一日フリーきっぷ割引キャンペーン)</p> <p>【内容】 わたらせ渓谷鐵道の利用促進および潜在的利用者の掘起こしを目的として、令和7年12月から令和8年2月までの3か月間、GunMaaS(群馬県版MaaS)を活用した「一日フリーきっぷ割引キャンペーン」を実施。 本キャンペーンでは、通常価格1,880円(大人1枚)の紙きっぷに対し、GunMaaS特別価格1,500円(大人1枚)のデジタルチケットを期間限定で販売している。あわせて、デジタルチケット提示者を対象に、駅直結の温泉施設における入浴料割引をはじめとする沿線施設での割引特典や、路線バスの運賃無料施策を実施し、鉄道利用とあわせた沿線地域内の回遊性向上および利用促進を図る。 また、キャンペーンの効果検証を目的として、チケット購入者等を対象としたアンケート調査を実施し、利用実態や行動変容の把握を行う。</p> <p>【結果】 事業期間中ではあるものの、GunMaaSで購入された一日フリーきっぷの利用数は、12月31日時点では目標の対前年同月比1.5倍を上回る約1.6倍となった。割引価格での販売であるため売上金額自体の伸びは限定的であるが、利用者数の増加により沿線地域への来訪者数の拡大や消費機会の創出といった経済効果が期待された。 また、アンケート調査の途中集計結果からは、普段はわたらせ渓谷鐵道を利用していない層の利用や、観光・余暇目的での利用が一定程度見られ、割引施策や特典付与が鉄道利用のきっかけとなっていることが確認されている。沿線施設・企業と連携した割引施策により、沿線全体を巻き込んだ利用促進の取組として一定の効果が期待される。</p>	<p>A</p> <p>本事業は、事業計画に基づき適切に実施されている。 GunMaaSを活用した一日フリーきっぷ割引キャンペーンに加え、駅直結の温泉施設をはじめとする沿線施設での割引特典や路線バスの運賃無料施策を組み合わせ、鉄道利用と地域内回遊の促進を図っている。 また、販売実績の把握やアンケート調査による効果検証も行われており、利用者数の増加が確認されていることから、実証的取組として妥当性の高い事業であると評価できる。</p>	<p>本事業により、割引施策や沿線施設と連携した取組が鉄道利用の促進や地域内回遊の向上に資する可能性が示唆されていることから、今後はアンケート調査の最終結果を踏まえ、より効果的な利用促進策の検討を進めていく必要がある。 また、今後わたらせ渓谷鐵道沿線において滞在型宿泊施設のオープンが予定されていることに加え、沿線の開発を進める民間企業との連携も視野に入れ、宿泊と鉄道利用を組み合わせた商品造成や周遊施策について検討を行い、来訪者数の拡大や滞在時間の延長につなげていくことが求められる。 引き続き、沿線自治体、交通事業者、民間事業者が連携し、わたらせ渓谷鐵道を軸とした地域公共交通の利用促進に取り組んでいく。</p>

<p>地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)</p>	<p>事業が計画どおり適切に実施されている点を評価する。 引き続き鉄道の利用促進施策に取り組まれるとともに、今般実施した事業の検証結果を今後のわたらせ渓谷鐵道再生協議会における経営再建の取組、及び、わたらせ渓谷鐵道沿線地域交通リ・デザイン推進協議会における鉄道事業再構築に関する協議に活用されることを期待する。</p>
--	---

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進等に係る事業)

令和8年1月29日

協議会名: 上信電鉄沿線市町村連絡協議会

評価対象事業名: 地域公共交通再構築調査事業(実証事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
<p>潜在的利用者を把握し新たな収入確保策の検討につなげるため、以下2種類のお得なフリー切符を販売する実証事業を実施した。</p> <p>①グループ利用者を対象とした「複数人お得きっぷ」キャンペーン 実証運行期間: 令和7年11月1日～令和7年12月31日 内容: グループの利用者を対象に、上信線が通常のフリー切符よりお得に乗り放題となるキャンペーンを実施。キャンペーン切符の券種は2名券と3名券とし、GunMaaS(群馬県版MaaS)における電子チケットと有人駅における紙チケットを併用して販売。また、効果検証のため、切符購入者を対象としたアンケート調査を実施。 目標: 900枚 結果: 93枚(内訳: 電子チケット27枚、紙チケット66枚)、209名の利用 ・目標に比べ切符の売上枚数は伸び悩んだが、利用者アンケート(令和8年1月27日現在)では9割以上が「満足」と回答するなど、観光目的に資する切符として一定の需要があることが分かった。 ・また、利用者アンケートにより利用目的などを把握したほか、購入理由の大半は価格の安さによることから、観光施設等と連携してお得感が伝わる切符を販売することで、更なる利用者の増加が期待される。</p> <p>②高校生世代利用者を対象とした「高校生世代限定お得きっぷ」キャンペーン 実証運行期間: 令和7年11月1日～令和7年12月31日 内容: 高校生世代の利用者を対象に、上信線が1日500円で乗り放題となるキャンペーンを実施。キャンペーン切符は、GunMaaSにおいて、電子チケットで販売。また、効果検証のため、切符購入者を対象としたアンケート調査を実施。 目標: 1000枚 結果: 121枚 ・目標に比べ切符の売上枚数は伸び悩んだが、休日かつ降水日という条件で売上枚数をみると、1日あたりの売上枚数は約2.6枚で、全体の平均約2.0枚を上回っており、これらの条件は一定程度鉄道利用促進効果をもたらすと考えられる。 ・利用者アンケート(令和8年1月27日現在)によると、利用目的の大半は遊びによるもので、購入理由の大半は価格の安さによることが分かった。このため、お出かけ施設と連携して、休日及び平日の下校後に使用できるお得感が伝わる切符を販売することで、更なる利用者の増加が期待される。</p>	A	<p>・「複数人お得きっぷ」については、一定程度県外からの利用者もいたため、利用者増加のためには、GunMaaSやSNS等を活用した県外利用者向けへのPRが効果的と考えられる。</p> <p>・「高校生世代限定お得きっぷ」については、通学目的の利用より買い物等の遊び目的の利用が多くなっていたため、利用者増加のためには、お出かけ施設と連携したPRが効果的と考えられる。</p> <p>・当事業により、利用促進への効果が確認できたことから、今後も効果的な方策を検討しつつ、引き続き潜在的利用者の掘り起こし施策に取り組む。</p>

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	<p>事業が計画どおり適切に実施されている点を評価する。</p> <p>引き続き鉄道の利用促進施策に取り組まれるとともに、今般実施した事業の検証結果を今後の上信電鉄沿線市町村連絡協議会における経営再建の取組、及び、上信鉄道沿線地域交通・デザイン推進協議会における鉄道事業再構築に関する協議に活用されることを期待する。</p>
---------------------------------	--

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進等に係る事業)

令和8年1月27日

協議会名: 上毛線再生協議会

評価対象事業名: 地域公共交通再構築調査事業(実証事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
<p>前橋市を舞台としたアニメ「前橋ウィッチーズ」では、主要キャラクターの5人の名前に上毛電気鉄道の駅名が使われていたり、上毛電気鉄道の車両が登場する。つながりが深い当アニメと上毛電気鉄道がコラボレーションをすることで、利用促進にどの程度の効果があるのか検証するもの。</p> <p><実施内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アニメデザインのラッピング車両の運行 ・アニメデザインの1日フリーパス券の販売(1,000枚限定) ・キャラクター名に使われている各駅にキャラクターパネルの設置等 ・利用者アンケート調査 <p>※車両ラッピング費用、キャラクターパネル制作費用は協議会自己負担</p> <p><結果></p> <p>定期外輸送人員:1,000名増の目標に対し、3,051名増で目標達成となり、鉄道とアニメのコラボにより利用促進に一定の効果が確認できた。</p> <p>実証事業の中で、来訪された方々に対して、鉄道を用いたアニメツーリズムに関するアンケートを行い、効果や更なるニーズについて調査、検証を行い、他の地方鉄道への展開の可能性に関する分析を行った。</p>	<p>A</p> <p>本事業については、アニメと鉄道がコラボレーションをすることで、利用促進にどの程度の効果があるのか検証するもので、実際の利用者は増加し、当初の目標を達成した。</p> <p>アンケート調査の中で、地元利用者のほかに、県外からの来訪者を呼び込むきっかけとなるだけでなく、ほとんどの利用者がまた利用したいと回答する結果となった。このことから、本事業が一過性ではなく継続した利用を促進する可能性があることを示唆しており、一定の効果があったと思料される。</p> <p>今回、地域性が高いアニメではあったものの、調査の結果から、他の地方鉄道における利用促進策の取り組みとして展開する可能性も考えられることから、本実施事業が適切であったと評価している。</p>	<p>今回、事業者との調整の中で、マンパワーや時間の関係から、記載したコラボ企画しか取り組みなかったが、さらなる企画を取り組めばさらなる誘客が見込めたとと思われる。</p> <p>適当な効果が想定できない中で、想定以上の利用・反響に対し、二の矢の取り組みに取り掛かることができなかった。</p> <p>もう少し戦略的に事業を検討できれば更なる効果を生むことができたと思われる。</p> <p>より柔軟に次の企画に取り組めるような機会を逸しない体制は重要である。</p>

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	<p>事業が計画どおり適切に実施されている点を評価する。</p> <p>引き続き鉄道の利用促進施策に取り組まれるとともに、今般実施した事業の検証結果を今後の上毛線再生協議会における経営再建の取組、及び、上毛電気鉄道沿線地域交通・デザイン推進協議会における鉄道事業再構築に関する協議に活用されることを期待する。</p>
---------------------------------	--

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定等に係る事業)

令和 8年 1月 28日

協議会名: 中小私鉄等連携会議

評価対象事業名: 地域公共交通再構築調査事業(協議会開催・現状分析に必要な調査等)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③計画等の策定等に向けた方針
<p>①私鉄3社の実態把握 内容:3社の実態把握、共通化対象業務に係る情報収集、新たなサポート体制検討に係る意見聴取のため、各社4月・7月計2回ずつヒアリングを実施。 結果:各社共通して、人材不足・企画営業力の欠如・経営力不足等の問題を抱えており、何も対策を講じなければ労務破綻や更なる赤字増加等のリスクがあるため、外部からのサポートが必要であることが明らかとなった。</p> <p>②新たなサポート体制が取り組むべき課題の整理 内容:3社が抱える問題解決のために、新たなサポート体制が取り組むべき課題の整理を実施。 結果:人材採用(合同説明会等の共同実施)やインバウンド企画等の営業企画の立案・実行、コスト削減に向けた経理・購買業務の集約等。</p> <p>③新たなサポート体制の体系検討 内容:3社の新たなサポート体制の体系検討を実施。 結果:コンサル派遣等含め8つの体系をパターン別に検討し、経営力強化等の観点から現時点においては「一般社団法人」が有力であることが示された。</p> <p>④業務内容(短期的施策)の検討 内容:新たなサポート体制が短期的に取組む施策の検討実施。 結果:共通フリー乗車券の販売、SNS活用したプロモーション等の施策検討を行い、予想事業収支を算出した。</p> <p>⑤新組織設立による定性・定量評価 内容:新組織設立による効果として定性・定量面の評価を実施。 結果:成行と比較して、中長期的には一定の行政補助金額の削減効果があることが明らかとなった。</p>	A	<p>次年度以降、新たなサポート体制(体系別)がもたらす効果や課題、人員計画について詳細検討を行う。また、3社に対するサポート事業の具体化、新組織の具体的な事業計画策定等を実施する予定。</p>

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	事業が計画どおり適切に実施されている点を評価する。 当該事業の調査結果を踏まえ、次年度以降、3社に対するサポート事業の具体化、新組織の具体的な事業計画策定に向けた協議に引き続き取り組まれることを期待する。
---------------------------------	---